



# おちほ

第56号 平成18年11月19日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

## The セタコンサート 2006



### 『今宵は素敵な夜を』

「ワイワイ、ガヤガヤ」と、皆落ち着きのない体育館。さて、今年の七夕に落穂へと舞い降りてくる織姫・彦星はどんなステージを見せてくれるのでしょうか。☆

いよいよステージの幕が上がりました。寮生さんも職員もステージに釘付けです。青に白の照明、かと思うとステージの織姫・彦星だけに照らされるライト。素敵な演出の中、歌う、そして踊るステージの上の二人。そんな二人に合わせて寮生さんも職員も歌って、踊る。体育館の中は、心はひとつ、まさにそんな感じでした。

猫のお面に犬のお面、衣装チェンジ。素敵なお道具演出もさながら、ステージ脇には笹の葉がサラサラ。その笹の葉には前もって寮生さんに書いて頂いた短冊飾りが揺れていました。可愛い絵が描かれたたくさんの短冊。この一つ一つの絵には寮生さんのどんなお願い事が込められているのでしょうか。

不思議なもので、七夕の夜はいつも曇りなのです。けれど厚い厚い雲の向こうにはきつと、天の川が流れているはず!!

落穂にやって来た織姫・彦星の歌声がきつと届けてくれたんだろうなあ。皆のお願い事を、厚い雲の向こう側へと。

# 運動会を見学して

理事長 高井正義

就任以来、施設長との連絡事項や書類の確認のため一週間に一度は施設に行き、時間がある時には周辺の植木の剪定や草刈り等環境整備の補助を行うようにしている。

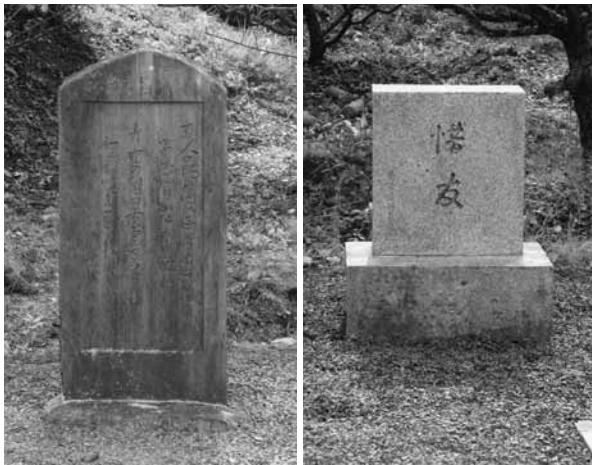
## 感 所

外にいと、10時過ぎに大勢の寮生の人たちが何人かの職員に引率され、朝の運動(歩行)に出る姿をよく見かける。寮生の人たちの表情を眺めていると、職員の手引かれて歩いていく人、集団から遅れる人、座りこんで前に進まない人等さまざまに状態のなかで全体的に活発さに欠け、何か元気のない様子が見受けられる感じがしていた。

ところが10月8日に落穂寮の運動会が実施され、午前中のプログラム「全員徒歩」を見学して、寮生の人たちの表情に普段感じていたこととは異なった感じを懐いた。最初は、一人か二人づつで車椅子や歩行器等で職員の誘導によってグラウンドを一周するレースが続き、次には補助具なしの数人が一組になって職員誘導により走るレースがあった。どの寮生の人たちを見ても途中で立ち止まったり、保護者席に立ち寄りたりでなかなか前に進まない。その都度、職員の声かけや保護者、観客の拍手によって、笑顔が出たり、表情が明るくなって前に進みます。また、最後の方には職員の誘導なしで5人ほどが一組になって走る組があった。その中には問題行動を起こしてよく職員から注意を受けているのを見かける人もいたが、その時は真剣な表情で元気よく、目標のゴール目ざして猛スピードで走っている姿等が見られ、運動会での寮生の人たちの表情からは普段感じていた思いとは異なり、明るく元気で生き生きとした様子を感じた。

運動会では、手厚い職員の関わりや大勢の観客の応援や拍手が送られる。この人たちの個々の存在を廻りの人たちが強く意識して関わっている雰囲気がこの人たちにも伝わり、気持が満たされて生き生きとした姿が見られたのではないだろうか。

人間の関わり方の基本と考えられる「どのような人に対しても、相手の可能性をとり上げ、信頼して見捨てない。」といった気持ちを持つことの大切さを改めて感じた。



画家・随筆家であった故・小杉放庵の墨蹟になる、初代落穂寮長斉藤謙蔵氏を顕彰する歌碑(椎の木会役員有志建立)が、南郷から石部へ移転する際に膳所の岡山霊園に移設されたのですが、この度、同様に建立された『惜友』の碑と共に、落穂寮のグラウンドの角に移設されました。

# しよかん

# 背 守 り

寮長 山下陽一

## シュレツダーが食いちぎる

子どもにとって昔にはなかった事故といえるでしょう。排紙処分として紙を織切りにする裁断機が販売されるようになり、それによる幼児の指切断事故がクローズアップされています。国は企業に対して事故報告と安全基準を定めることに奔走している様子です。いろいろな意味で乳幼児にとって今は危険が溢れている生活になっていくようで、育てる親御さんはずいぶんご心配なことでしょう。

しかし、翻ってみれば、子どもにとっての危険は、住環境が変わり様々な機能をもった生活器具が生活になくてはならないものになったからなのではないか。わたしは、昔も生活に欠かせないものながら結構危険がいっぱいの生活があったと思っています。

囲炉裏、かまど、井戸、便所、柵が整備されていない溜め池や川つぶち、ノツボなど。今からせいぜい四十年もさかのぼれば危険がいっぱいでした。その生活環境の中でも子

どもたちは、何が危険なのかよく知っていました。

## 背守り

先日、京都府美山町にある藍染作家の工房を訪ね藍甕をのぞいてきたのですが、工房の二階に染物・着物の展示がされておりました。そのなかに身の丈五〇センチほどの乳児の産着が下げてあり、一つ身の襟首に一片五センチほどの三角の布が縫いつけられて、「背守（せまもり）」の説明がされていました。

囲炉裏や井戸にはまったとき、荒神さまがその部分をつかんで助けあげてくれる、とありました。

背守については各地方に見られるようですが、背後からの「厄除け」としていろいろな形が伝わっているようです。

近代西洋医療が一般化する前まで、子どもが生まれることは、母子共に危険な過程を経てなされることでした。

母親の胎内より生まれてくることはずいぶん神秘的なことだったので。赤ん坊は「霊」の世界からこの世に生まれ出てきたものの、「人間界」の一員に加わるまでは子どもに付いた靈魂は不安定で、不注意があると身体から抜け出ていってしまうものとされていたのです。本当に心配なことでした。そして、親たちはその

時期を無事に過ごすように一生懸命祈ったり、魔よけの願を発したりしていました。

## たましいをこめる

さて、現代の子育てでは小児医学と情報処理技術の発達によりこのような心配はまずありません。若い両親たちは授乳の苦勞も工夫も必要なく、ドライミルクはコンビニに売っているし、育児上の問題についてもコンピュータやテレビによる電子情報を簡単に得ることが出来ます。

しかしながら、安全で簡単になつたように見える育児の仕方に関大きな問題が含まれているのではないかと、という疑問です。

人類が子育てを始めた数万年前からつい最近まで、生活に必要なことを身につけるため一つひとつが手間ひまかけてなされてきました。家族全員が苦勞して育てるなかで幼い「たましい」が注ぎこまれていきました。

しかし今の子どもたちの成長の様子をみたととき、人として成長するうえで欠かしてはならないものやその時期にしか身につけることができないものを身につけながら成長しているのだろうか。また、一昔前の親たちのように、わが子の成長の過程にあるあどけなさへのよろこび、真剣な成長への「祈り」、子どものころを注意深く見守ることの大切さなどに

ついて次第に希薄になってきているのではないかと、という心配です。もしそうならば、子どもにしてみれば危険を察知する知恵や直感力を身につけないまま成長し、高層アパートに住むことになったり、部屋の隅にシュレツダーがあるならば……と。

## 二通りの空洞化

九月十一日、事件から五年を経たというところでニューヨークの世界貿易センタービルがテロにより短時間で崩壊した「グランドゼロ」と呼ばれている場所の映像を繰り返し放映していました。

ビルを高層化するための新しい建築技術が開発されました。このビルは壁面を強化することにより、内部の柱が必要なくなつて各階は広い面積が効果的に機能的に使えるという現代建築学の粋を集めたものでした。ところがこの空洞化した建物は数人のテロリストにより簡単に崩壊してしまいました。この貿易センタービルのように外からの些細な衝撃に刺激されると簡単に破壊する空洞化した「現代人の精神構造」だったら……

一瞬のうちに破壊されたのはニューヨークの世界貿易センタービルのことだけではないのではないかと、と私には思えるのです。

(二〇〇六・十・十四)



後ろ姿は赤ずきんちゃん♡  
ちょっぴり変わった玉入れ  
を楽しみました。



# レクリエーション大会 2006 おちほ

今年で三十九回目となる「落穂寮レクリエーション大会」が十月八日に落穂寮グラウンドにて開催されました。それでは当日参加できなかった方にも分かるようレクリエーション大会を紹介していきます。

まずは、寮生さんによる徒競走。寮生さんにとっては一番の見せ場です。特に普段の生活で身体の機能訓練に取り組んでおられる方には、その成果を披露する機会でもあります。会場のみならずの声援を受けながら全員が一生懸命に走りました。

楽しい昼食の後は紅白対抗戦。テントでの風船リレーゲームでは手製のうちわでみなさん大ハッスル。風船が破れるハプニングも。玉入れではリレー形式で玉を持ってカゴに入れてもらい、つな引きでは負けチームの代表の頭上で粉入り風船が炸裂！真白になった職員の大爆笑でした。「マラカスバトンリレー」では二人一組で大なべから豆をひろい、筒に入れてマラカスを作ってもらったり。最後は完成したマラカスでダンス。

最終種目の音楽とダンスでは楽しく踊り、大きな布で作ったバルーンにもチャレンジしてもらいました。今回も参加者の皆様、寮生さん達の頑張りで楽しいレクリエーション大会になりました。ごころうさま、そしてありがとうございます！

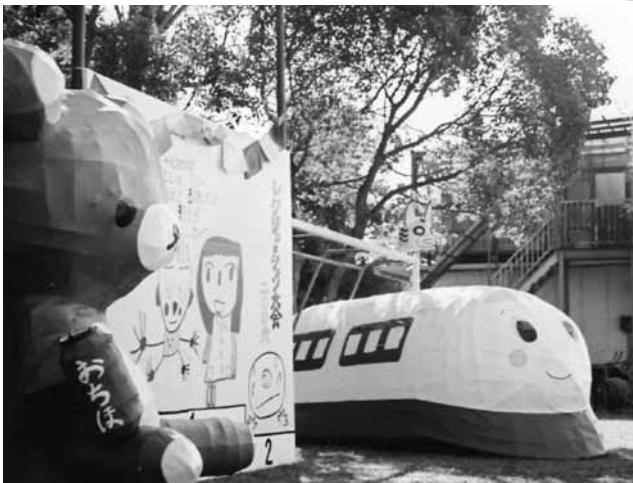


一生懸命  
走ったよ!!  
リズムに  
合わせて  
イチ・ニ・♪



綱引きにも  
全力投球

マラカスバトン  
制作中  
むすかしそ〜



# 雨女はだ〜れだ!?

去る七月十八日に、毎年恒例の女子棟飯盒炊さんへ行ってきました。当日の天気はとうとう…。今年は残念ながら小雨のばらつく雨模様。そういうえば今年のお花見遠足も、雨でホールから桜を見ながらのお弁当だったなあ…ということ、水遊びはできないけど気分だけでも味わってもらおうと、甲賀市にある高間みずべ公園まで向かうことにしました。



▲お肉まだかな〜♪

今回のメニューはメインの焼き肉のほか、味の染み込んだ焼豚、きのこのホイル焼き、しいたけのマヨネーズ焼きなど、サイドメニューもいくつかわり替えてみました。泳げないなら食べるっきゃない!という寮生さん、美味しいものを食べるのが大好きな寮生さん、みなさんきつと喜んで食べて下さっていました。



▲みんなでハイ、チーズ☺

さっていたと思います。その証拠に、食べる場所と焼き場を十往復以上される寮生さんもおられましたよ。

毎年日差しと火の熱気で地獄を見る焼き場担当の職員ですが、今年は雨だったので余裕を持つことができたようです。その余裕が裏目に出たのか、みなさんのお腹が満たされた頃になり「焼くの忘れてたー!」と何種類か出てくる、というハプニングもありました。

やはり外出するのなら晴れの日が良いに決まってる! みなさん、今後の行事は無事晴れるように祈りましょう。

ただ、今年度に入り二つの行事で雨に降られていることを考えると、新人職員・K崎さんに雨女説が浮上してしまいうもおかしくないかな? と思ってしまうました(笑)

# 暑い、熱い、アツイ…

八月五日に男子棟では恒例行事の飯盒炊さんを行いました。当初は女子棟と同じ、高間みずべ公園に行く予定でしたが、連日の猛暑の為、寮生さんに熱中症の危険も考え、今回は寮内で行う事になりました。午前中は川遊びの代わりに寮のプールで過ごしてもらいました。みなさんとても楽しそうに過ごされていました。

## ▼プールは気持ちイイなあ〜



昼食は外でバーベキューをしました。暑いのでタープ(日よけ)も用意して焼きあがるのを待ってもらいました。が、大変なのは焼き係の担当職員。



▲バーベキューは「最高です!!」

空からは太陽、目の前はバーベキューの火、ダブルのあつさで「あぢいっ!」と叫んでいました。

その職員の苦勞もあり、バーベキューはおいしく頂きました。ありがとうございます。

あんまり暑いのは困るのですが、外で食事するのは楽しいし、難しいものです。(夏だし仕方ないか?)



▲担当者、ありがとうございます!

# そくねぞねぞね お祭りだあ



今年もやりました!! 寮生さんが楽しみにしている納涼祭☆お手製の提燈には、寮生さん達が描いた絵が薄暗い夜を華やかに演出し、独特な祭りの音楽の中、甚平を着た寮生さんや浴衣を着た職員の姿がありました。今年

に参加されていました。たくさんのお寮生さんが照れながら歌ってください、場内は大盛り上がりでした。音楽の好きな方が多いので、聞いておられる時にも体を揺らしたり、手をたたいたりと楽しませていました。落ち着いてきた頃にグラウンドにて花火をやりまし

のメニューは、おにぎり・焼きそば・コロッケ・フランクフルト・ジュース・アイスクリーム🍷でした。各自がお皿を持って「○○ください」と職員が扮するお店に出向いてもらうのですが、一人前でもお腹いっぱいになる量でありました



が、食に目がない寮生さんは何度もお代わりされる方もいました。お腹も満たされた頃から、去年と同様♪カラオケ大会♪を行いました。普段あまり歌わない寮生さんもこの時には歌った後にもらえるお菓子狙いなのか張り切っ



た。夜空に高く上がる花火はとても綺麗で、興奮しておられる人もいました。打ち上げ花火の後は手持ちの花火もしました。火が近いので怖がる人もいましたが、職



員と一緒に花火の光と音を楽しみました。年々暑さが増し、過ごし辛い夏ですが、そんな夏でも祭りがあれば、暑さも忘れるくらい夏っていいなあと思えてきます。来年も楽しみですね😊

# お地藏様 ありがとう



落穂寮の事務所の前にお地藏様がおります。去年は雨が降ってしまい、一部の人しか拝むことができませんでした。晴だったので全員が揃いました。お地藏様の前にゴザを敷き、一人ひとり前へ出て寮長と一緒に手を添えて拝みました。お供え物のお菓子や珍しい飾り物が目につき、ついつい手を伸ばそうとする寮生さんや、自分の名前を見つけて指をさしておられる人もいました。お地藏様、これからも落穂のみんなに大きな怪我や病気がないように見守っていて下さいね。



# 06' 石部中交流会



▲マンモス班と歩行



▲カンガルー班と歩行▲



▲あすなる班とお風呂掃除

今年も石部中学校一年生との交流会が、七月四日(第一回)、十月十一日(第二回)の二度に渡って行われました。どの生徒さんも思っていたよりも楽しく関わることができたという感想をもって第一回を終えておられました。二回目は生憎の雨で、室内での活動となりましたが、その分かわりも多く、良い経験ができたようです。今回は生徒さんの文章よりも、実際の表情を見て頂こうと思いましたが、生徒の皆さん、ありがとうございました。



▲カメ班と対面式



▲雨天時は雑巾がけ



▲竹班と造形活動中です。



▲これも機能訓練中。

△△△木言△△△  
 目を向けられずに育つものはない。大地に根を張り、大きくなっても、目を向けられなければ当然問題はおきる。自らの力で立つているように見えても、多くの心がそれを支えてくれている。  
 どこにいても、なんでもあっても同じこと。見ていることをしっかりと伝えてください。

△落穂察には桜が沢山植えられています。毎年とても綺麗な花を咲かせて、皆の目を楽しませてくれていました。しかし近年、施設建設の際に枝を切った事や、桜の寿命そのものの影響からか、枯れてきたものが増えました。また、手入れが行き届かずに枯れていくものもあります。その中で、一度この広報に載せたいと思っていた桜が、手入れ不足からとうとう枯れてしまいました。毎年十一月頃から四月頃まで少しずつ咲くのですが、私は雪が積もった中に咲いているのを見るのが一番好きでした。忙しさを言い訳に手入れを怠った自分が情けなく、懺悔の念でいっぱいです。もともともっと色んなところに気を配れるようにと思い知らされました。後悔しないために。

泉